

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		お祭りの他、良い天気の日には、近くの廣旗神社や、はるかぜ農園辺りの散歩中に、近所の同年齢の方と世間話や、思い出話が多くできるよう心がけている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		2009年の職員実施事項を毎朝唱和したり、「目配り・気配り私の目標」を毎朝具体化し、みんなで取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域運営推進会議は奇数月の第4月曜日、家族会は、毎年3月、9月と定着している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		お寿司ができた時は、ご近所に賞味していただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近くの小学生、中学生の体験学習を積極的に受け入れて、その機能を地域へ還元している。その後学校で「介護クラブ」ができ、それ以外の日でも訪問してくれている。</p>		<p>春休み、夏休みの家族参観や、中学時代の体験学習により、将来介護福祉士を目指し、その後も休日には時々実習にきている職員の子供がいる。夢を壊さないように、みんなまで指導し今後を期待している。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価について、全職員で見直し学ぶ機会を持ったり、香川県認知症介護実践研修にて他の事業所から学んだ改善点について、職員、運営者が一緒に検討して対策を講じている。</p>		<p>毎年1月の社内研修に取り入れている。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、避難訓練、行事、家族会、研修会参加状況、入居者様の健康状況等を報告し、話し合う中でホームへの理解、協力を得よう努めている。また、介護保険担当者からの介護保険制度の説明もしていただき、毎回充実した会になっている。なごやかで、楽しみにしてくれている。</p>		<p>9月:ご家族からの提案①面会ノート置いて欲しい。②意見・要望・提案箱の設置があり、特に面会ノートは活用できサービス向上に役立っている。</p>
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームページを開設している。市町村担当者の方にはサービスや運営上の相談をしている。他のグループホームの取り組み状況などの話し合いもでき、サービスの向上に活かしている。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について知らない職員が多いので、関連資料を配布し、全スタッフが目を通すようにしている。今後も社内研修に取り入れる。</p>		
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月の全体業務会議の後、「虐待防止委員会」を開催している。虐待事例検討、対策などを話し合い、見過ごすことのないように、全職員に注意している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間を取り説明をしている。入居しても不明な内容についてはその都度説明をしている。また、変更があれば、家族会や担当者会議でお知らせすることになっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や家族会、担当者会などで自由に意見を言える機会を設けている。また、3か月に1回家族アンケートにより、ご意見、ご要望、疑問点を尋ね、説明を行い理解していただいている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の手紙で、健康状態や、暮らしぶりは詳しく報告している。金銭面については預り金の残高を領収書と一緒に報告している。預り金入金はその都度、出納簿確認をもらい確認印をもらっている。職員異動については、面会時、担当者会議などで紹介し、玄関には職員写真を掲示している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会、行事参加、運営推進会議、アンケートにより改善に向け努力している。アンケートの回収率は70%ではあるが、丁寧に書いてくださる方が増えてきている。職員全員がご家族の要望、お気持ちを理解し、介護に反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務カンファレンスにより意見を出し合い、業務会議、運営会議に反映している。また、若年社員で接遇委員会を積極的に開催している。</p>	<p>毎月1回の全体業務会議、フロアごとの会議、職員・入居者の運営会議を開催している。特に入居者様との運営会議は居合わせたりハビリの先生や面会者の参加もあり活発で楽しく、柔軟に対応ができています。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>事前にわかっている行事予定については、勤務調整を行っている。また、入居者の緊急時には、施設長、看護師、近隣スタッフの応援が得られ、ケアの継続ができるよう配置している。</p>	<p>2009年1月より宿直勤務を3日に一度程度配置している。(宿直勤務の翌日は休日としている。)</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職については防ぎきれない部分もあるが、入居者のダメージを最小限に抑えるよう、介護計画や記録の充実に努力している。</p>	<p>各入居者の注意事項やヒヤリ・ハットなど記入したファイルを利用して、担当者の引継ぎを十分にしよう努力している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修プログラムにそって計画的に研修するようにしている。その後は、社内研修、社外研修の機会があり、必要に応じ管理者、ケアマネジャーなどの指導もある。特にロールプレイング(役割演技法)でわかりやすい指導もしている。</p>	<p>ロールプレイング:電話にて部屋の空き状況のお知らせ、入居者の身心の状況のお伝え、緊急時の入院準備、オムツ交換、清拭の湯の温度、タオルの絞り加減、清拭の仕方など実施している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県介護サービス事業者協会(民間事業者)内で、交流研修を持っている。交流会での学びを各ホームの質向上に役立てている。</p>	<p>困った時など相談したり、入居者の空き状況などの情報交換をしている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>シフト上一度に全員出席が困難なので、2回に分けて親睦会を行うよう取り組んでいる。</p>	<p>2階、3階合同でするので情報交換したり、コミュニケーション強化にもなり、運営に役立っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>経験年数や年齢の違いがあるが、毎朝の会や、休憩時間、親睦会を通して把握している。</p>	<p>○ 2009年の個々の目標に対して、自己評価を3か月ごとに行い、向上心を持って取り組んでいる。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者に担当職員をつけ、困ったこと、不安なこと何でも気軽に話せるよう信頼関係を深めている。また、運営推進会議でも入居者様は得意そうに生活暦を話してくれるので、みんなで感動しながら傾聴している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時から家族と話す時間を十分に取って、不安感、困ったこと、要望などよく聴くようにしている。また、入居後1~2週間はホーム生活の様子をこまめに電話でお知らせしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、カンファレンスを開き入居者にとって必要な支援をしている。(定期的な往診、訪問リハビリ、訪問歯科などもある)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前もって家族から情報を得て対応するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人を尊重し、プライバシーを守りながら声掛けし、入居者と共に食事の下ごしらえ、盛り付け、洗濯たたみなどそれぞれの方に適した役割分担をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会、面会、担当者会議、アンケートなどで家族の思い、考え、不安、心配事などを聞き、おだやかな生活が送れるよう共に検討している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者、家族関係を把握し、それに基づき支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達、兄弟への連絡の希望があれば、電話の取次ぎや、手紙などで関係が途切れないよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性別、認知症、相性により関係性が異なるが、日々の言動を観察しながらよりよい関わりがもてるよう、食事の座席、ソファの座席、外出時の配車などを配慮している。		時々席替えや、テーブルの配置換えなどで気分転換を図っている。また、利用者の家族の命日には、皆でお経を唱えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した場合は連絡を取り合ったり、在宅生活の方はヘルパーサービスで継続できているが、全員の方と関係が続くことは少ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に趣味や経験を把握しカンファレンスを行い希望に沿えるようにしたり、毎月の運営会議で要望などの把握に努め検討し改善、実行している。		運営会議において、栄養士より食事の要望もうかがっている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、本人から情報収集し、その後も会話の中から生活環境などの把握をしている。		毎月の運営会議のテーマに沿って、生まれ育った所、子供の頃のお正月の服装、食べ物、お年玉、運動会。風邪をひかない工夫、みんなと仲良くするための心構え、居室で困った時はどうするなど自信を持って元気に発表してくれている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の状態、生活の流れを介護記録などで把握に努め、思い出の写真集も増えてきている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当職員が中心になって話し合い、個別性のある介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3か月)に見直しをしている。状況に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のチェックシート記録(排泄、水分補給、口腔ケア、SPO ₂ 、散歩、機能訓練など)を計画上に反映している。また、気になることは、必要に応じて申し送りノートで共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の支援、入退院の連絡調整や、入院中の情報収集の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防による避難訓練の指導や、ボランティア、地域学校の協力を得ながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護支援専門員が中心になり支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に毎回出席していただき、会を通じて協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に診察が必要な方には家族や本人の希望を聞き、できるだけ希望にそうよう支援をしている。看護師が同行したり、ホームで送迎したり利用者の状況に合わせ支援している。主治医と連携をとりながら継続して医療を受けられるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の診察を受けたり、専門医に相談し意見をいただき支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護職員を配置しており主治医との連携を主に行っている。特に入居者、ご家族は安心されている。		各ユニットごとに24時間、いつでも連絡がとれて相談ができ、必要時に対応し、主治医への連絡・連携が可能な体制を確保している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から病態の把握に努め安心して退院し、元のホーム生活に戻れるよう情報交換している。また、体力、筋力の回復を願い、訪問リハビリの先生とも連携を取っている。		入院時は、入院先の主治医、看護師、リハビリの先生方と時間をとり、情報提供している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	2008年7月より、重度化対応に関する指針を医療関係者、家族、職員が共有し取り組んでいる。看護師は3か月に1回の担当者会議において、本人、家族と相談の上、主治医の指導のもと、随時見直すことにしている。	○	重度化対応に伴い、職員は6月も「看取りの援助」の研修に参加し、人が亡くなる課程を理解することで、穏やかな終末を迎えていただくサービスの一助になればと考えている。第二回目の研修は2月14日に受講の予定である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化対応の具体的な支援内容を説明し、ご家族に対する身体的、精神的負担の配慮も心をこめて対応するよう心がけている。	○	事業所のできること、できないことを主治医と相談して連絡を取り、家族の理解を得たい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療機関と相談したり、サマリーなどを活用し情報交換を行ってダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>居室にあるトイレを使用し、プライバシーに配慮している。職員もさりげなく排泄介助を行っている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>入居者の希望で自宅や買物に行きたいなど個々に応じて支援している。行き先は本人に選んでもらっている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>職員は利用者の思いを聞きながら対応している。お互いに気になる言動があれば、注意しあったり、テーブルの配置換えをしたりしている。また、毎月の運営会議(入居者と職員、ある時は面会者や訪問リハビリの先生の参加もある)で個々の意見を大切に支援している。</p>		<p>すっかり慣れ親しんで活発な意見が出ている運営会議でも、個々の要望を把握、共有している。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>理・美容は本人の望む店に行ったり、ホーム内でカット、毛染め、ブローをしたり、その時その日に合った支援をしている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>入居者のリクエストメニューを取り入れ、一緒に準備したり、楽しんで一緒に食べたり、サポートしたり、入居者の会話を自然な雰囲気で行っている。</p>		<p>1月18日は入居者の得意だった「腕自慢料理教室」を計画している。おすし、大根の煮物、大根の生酢、高野豆腐の煮物、もり付け、酒のさかな、テーブル拭き、料理が出来ないので踊りをする等入居者全員参加で実施する。(12月の運営会議に決まった事)</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>個々の好みに合わせて対応している。</p>		<p>クリスマスは、軽いビールやシャンパンで楽しんでいる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員による声掛けや、各自の排泄チェック表により把握している。特に排便チェック表は、一目でわかるよう改善し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前にバイタルサインチェックや健康状態を確認して本人の希望にそった入浴を支援している。寒い日には入浴剤を入れ温泉気分を楽しんでいただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中外気浴をしたり、一人ひとりの生活のリズムに合わせて休息をとれるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	健康状態を見ながら、ウッドデッキのお花の水やり、料理の手伝い、洗濯たたみ、ごみすてなど気晴らしや、役割を共に楽しみながら支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力のある方については本人に管理してもらっている。自己管理できない方は預かっているお小遣いで買物をしてもらっている。個別に管理し出納帳をつけ、定期的に家族に確認印をもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の身体レベルに合わせて散歩、外出支援をしている。(買物、ドライブ、お花の観賞、農園で野菜の収穫など)ご家族が来られた時、よく外出される利用者もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画を立てて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使って居室でも使用できる。。手紙を自由に書けるよう便箋、封筒を準備している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶することを心がけている。お茶、コーヒーを勧め、会話がスムーズにできるようにしている。		訪問者に面会ノートをお渡しして、一言メッセージを書いてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月1回開催し、やむを得ず、玄関の施錠、ベットの柵など拘束が必要と思われる場合は、主治医に意見を聞き、ご家族の承認を得て行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の戸が開いた時はベルが鳴るようにしているが、やむを得ず玄関を施錠する時があるので、家族より同意を得ている。(3人体制の時、入浴時、掃除機を掛けている時は施錠している。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は記録、食事、配膳、洗濯たみなど入居者がよく見える場所で見守り、誰が何をしているか確認できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、爪切りなど、自己管理できる場合は持ってもらっている。調理器具などの危険なものは分かりにくいところに収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	徘徊、誤嚥、嚥下困難、下肢筋力の低下など、一人ひとりの状態を確認し個別対応した事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護職員や主治医の協力が常に得られるので、安心感はある。緊急マニュアルを作成し、家族連絡先、主治医、病歴、薬など分かるようにカード化している。特に入浴時の事故に備え、個々にマニュアルを作成し脱衣室に置き、確認し入浴介助に当たっている。	○	事故防止の対策を個々に作成し、目の届くところに置いている。新しい職員も入ってくるので、定期的に訓練をする必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的な避難訓練を実施し、消防署の協力を得たり、個々の避難方法を絵で表し、分かりやすくしている。身体状況により避難方法の見直しもあり本人も安心している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	手紙やご家族の面会時にリスクについて詳しく説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化はどの職員も早期に発見でき、その都度主治医と相談して対応している。異常があった場合は記録も残し、職員全員が目を通すようにしている。職員間で共有し、主治医にもその都度報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が、個々の内服薬をチェックし観察している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対する援助方法を散歩、機能訓練など身体を動かしたり、飲食物の工夫について適宜行っている(ヨーグルト、繊維のある食材など)。必要に応じて緩下剤を使用することもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はどの利用者も口腔内の清潔のため、歯磨きや洗浄をしている。また、必要に応じ歯科受診により、いつまでも美味しく口から食事が摂取できるよう支援している。チェック表を作成し管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスは栄養士が考えている。(2008年3月から栄養士をグループホームに配置している。)		一人ひとりの状態に合わせてミキサー食やきざみ食にしたり、利用者の力量に応じた介助をしている。ミキサー食の方も楽しく食事ができるよう、器も工夫している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルや、看護師作成資料により勉強会をしその予防に努めている。		看護師を中心に毎月1回勉強会をしている。全入居者、職員は、インフルエンザ予防接種を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日厨房の調理師が買物に行き、厨房の冷蔵庫、冷凍庫にて管理している。調理後は検食を取り2週間冷蔵庫にて保管している。食器、調理器具については、夕食後消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム玄関は2階、3階にあり、1階入口には木製の表札を掲げている。ユニット玄関、ウッドデッキには、ブランター、ベンチを置きくつろげる環境づくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全て自然木を使用し「和」を生かしており、ホール中心にして集える場所や機能訓練器具を設置している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を設けたり、ホールを工夫して一人でも安心して掛けられるソファを置いたり、ウッドデッキを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で家具や思い出の物を自由に持ち込んでいる。備え付けのクローゼットやソファ、ベットも各自で工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	床暖房を整備しており、自然な暖かさに心がけている。各居室には、温・湿度計を設置し目安としている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、洗面所、浴室などの各箇所に手すりがあり、安全に自立した生活が送れるように役立てている。必要に応じてトイレアームや高さ調整の便座を設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の程度、理解力に応じ自然な形で、できることをしてもらっている。洗濯たたみ、ごみすて、モップかけ、調理の手伝いなどをしてもらっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに季節のお花を植えたり、水やり、草抜きなどをして楽しんだり、生花や押し花にしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・月1回の入居者、職員の運営会議と3か月に1回の家族アンケートに取り組んでいる。